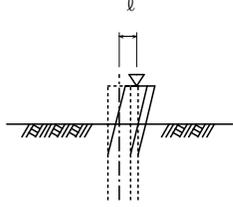
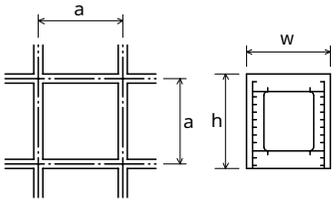
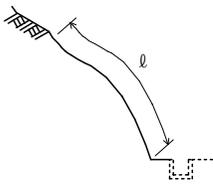


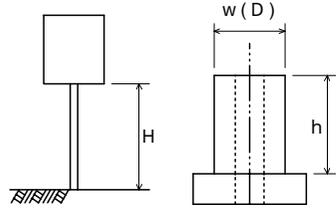
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
1 共通 編	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	4		矢板工〔指定仮設・任意仮設は除く〕 (鋼矢板) (軽量鋼矢板) (コンクリート矢板) (広幅鋼矢板) (可とう鋼矢板)	基 準 高	±50	
						根 入 長	設計値以上	
						変 位 $l$	100	
1 共通 編	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	5	1	法枠工 (現場打法枠工) (現場吹付法枠工)	法長 $l$	$l < 10m$ - 100 $l = 10m$ - 200	
						幅 $w$	- 30	
						高 さ $h$	- 30	
						吹付枠中心間隔 $a$	±100	
						延 長 $L$	- 200	
						延 長 $L$	- 200	
1 共通 編	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	5	2	法枠工 (プレキャスト法枠工)	法長 $l$	$l < 10m$ - 100 $l = 10m$ - 200	
						延 長 $L$	- 200	
						延 長 $L$	- 200	
						延 長 $L$	- 200	
1 共通 編	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	6		吹付工 (コンクリート) (モルタル)	法長 $l$	$l < 3m$ - 50 $l = 3m$ - 100	
						厚さ $t$	$t < 5cm$	- 10
							$t = 5cm$	- 20
							但し、吹付面に凹凸がある場合の 最小吹付厚は、設計厚の50%以上 とし、平均厚は設計厚以上	
						延 長 $L$	- 200	
						延 長 $L$	- 200	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
基準高は施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 変位は、施工延長 20m (測点間隔 25m の場合は 25m) につき 1 箇所、延長 20m (又は 25m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 枠延延長 100m につき 1 箇所、枠延延長 100m 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		曲線部は設計図書による
1 施工箇所毎		
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
1 施工箇所毎		
施工延長 40m につき 1 箇所、40m 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
200 m <sup>2</sup> につき 1 箇所以上、200 m <sup>2</sup> 以下は 2 箇所をせん孔により測定。		
1 施工箇所毎		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
1 共通編	2 一般施工	3 共通の工種	7	1	植生工 (種子吹付工) (張芝工) (筋芝工) (市松芝工) (植生ネット工) (種子帯工) (人工張芝工) (植生穴工)	切土法	$l < 5\text{ m}$	- 200
							$l = 5\text{ m}$	法長の - 4 %
						盛土法	$l < 5\text{ m}$	- 100
							$l = 5\text{ m}$	法長の - 2 %
						延 長 L		- 200
1 共通編	2 一般施工	3 共通の工種	7	2	植生工 (厚層基材吹付工) (客土吹付工)	法長 $l$	$l < 5\text{ m}$	- 200
							$l = 5\text{ m}$	法長の - 4 %
						厚さ $t$	$t < 5\text{ cm}$	- 10
							$t = 5\text{ cm}$	- 20
						但し、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は、設計厚の 50%以上とし、平均厚は設計厚以上。		
延 長 L		- 200						
1 共通編	2 一般施工	3 共通の工種	8		縁石工 (縁石・アスカーブ)	延 長 L		- 200
1 共通編	2 一般施工	3 共通の工種	9		小型標識工	設 置 高 さ H		設計値以上
						基礎	幅 $w (D)$	- 30
							高さ $h$	- 30
							根 入 れ 長	設計値以上

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
1 施工箇所毎		
施工延長 40mにつき 1 箇所、40m以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
施工面積 200 m <sup>2</sup> につき 1 箇所、面積 200 m <sup>2</sup> 以下のものは、1 施工箇所につき 2 箇所。 検査孔により測定。		
1 施工箇所毎		
1 箇所 / 1 施工箇所		
1 箇所 / 1 基		
基礎 1 基毎		

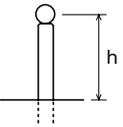
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
1 共通 編	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	10		防止柵工 (立入防止柵) (転落(横断)防止柵) (車止めポスト)	基礎	幅 w	- 30
							高 さ h	- 30
						パイプ取付高 H		+ 30 - 20
1 共通 編	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	11	1	路側防護柵工 (ガードレール)	基礎	幅 w	- 30
							高 さ h	- 30
						ビーム取付高 H		+ 30 - 20
1 共通 編	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	11	2	路側防護柵工 (ガードケーブル)	基礎	幅 w	- 30
							高 さ h	- 30
							延 長 L	- 100
						ケーブル取付高 H		+ 30 - 20

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>単独基礎 10 基につき 1 基、10 基以下のものは 2 基測定。測定箇所は 1 基につき 1 箇所測定。</p> <p>1 箇所 / 1 施工箇所</p>		
<p>1 箇所 / 施工延長 40m 40m 以下のものは、2 箇所 / 1 施工箇所。</p> <p>1 箇所 / 1 施工箇所</p>		
<p>1 箇所 / 1 基礎毎</p> <p>1 箇所 / 1 施工箇所</p>		

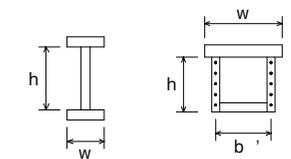
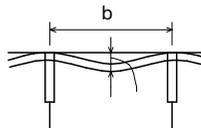
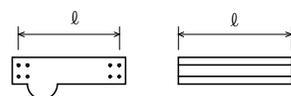
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共通 編	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	12		区画線工	厚 さ t (溶融式のみ)	設計値以上
						幅 w	設計値以上
1 共通 編	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	13		道路付属物工 (視線誘導標) (距離標)	高 さ h	±30

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
各線種毎に、1箇所テストピースにより測定。		
1箇所/10本 10本以下の場合は、2箇所測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
						測 定 項 目	規 格 値	
1 共 通 編	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	14	1	桁製作工 (仮組立による検査を実施する場合)  シミュレーション仮組立検査も含む	部 材 精 度	フランジ幅 w (m)	$\pm 2 \dots\dots$ w 0.5
							腹板高 h (m)	$\pm 3 \dots\dots$ $0.5 < w$ 1.0
							腹板間隔 b (m)	$\pm 4 \dots\dots$ $1.0 < w$ 2.0
								$\pm (3+w/2)$ $2.0 < w$
							板鋼げた及びトラス等の部材の腹板平面度 (mm)	h / 250
	箱げた及びトラス等のフランジ鋼床版のデッキプレート	b / 150						
		フランジの直角度 (mm)	w / 200					
		部 材 長 ℓ (m)	鋼げた	$\pm 3 \dots\dots$ ℓ 10 $\pm 4 \dots\dots$ ℓ > 10				
	トラス、アーチなど		$\pm 2 \dots\dots$ ℓ 10 $\pm 3 \dots\dots$ ℓ > 10					
			圧縮材の曲がり (mm)	ℓ / 1000				

測 定 基 準		測 定 箇 所	摘 要
鋼げた等	トラス・アーチ等		
主げた・主構 各支点及び各支間中央付近を測定。 床組など 構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測定。		 I型鋼げた      トラス弦材	
主げた 各支点及び各支間中央付近を測定。  h：腹板高 (mm) b：腹板又はリブの間隔 (mm) w：フランジ幅 (mm)			
原則として仮組立をしない状態の部材について、主要部材全数を測定。			
主要部材全数を測定。  ℓ：部材長 (mm)			

規格値の w, ℓ に代入する数値はm単位の数値である。  
 ただし、「板の平面度」, 「フランジの直角度」, 「圧縮材の曲り」の規格値の h, b, w, ℓ に代入する数値はmm単位の数値とする。

単位：mm

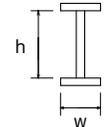
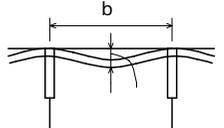
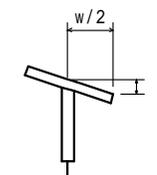
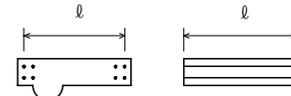
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
1 共通編	2 一般施工	3 共通の工種	14	1	桁製作工 (仮組立による検査を実施する場合)  シミュレーション仮組立検査も含む	仮組立精度	全長、支間長 L (m)	$\pm (10+L/10)$
							主げた、主構の中心間距離 B (m)	$\pm 4 \dots B \leq 20$ $\pm (3+B/2) \dots B > 20$
							主構の組立高さ h (m)	$\pm 5 \dots h \leq 5$ $\pm (2.5+h/2) \dots h > 5$
							主げた、主構の通り (mm)	$5+L/5 \dots L \leq 100$ $25 \dots L > 100$
							主げた、主構のそり (mm)	$-5 \sim +5 \dots L \leq 20$ $-5 \sim +10 \dots 20 < L \leq 40$ $-5 \sim +15 \dots 40 < L \leq 80$ $-5 \sim +25 \dots 80 < L \leq 200$
							主げた、主構の橋端における出入差 (mm)	設計値 $\pm 10$
							主げた、主構の鉛直度 (mm)	$3+h/1,000$
							現場継手部のすき間 1, 2 (mm)	設計値 $\pm 5$

測 定 基 準		測 定 箇 所	摘 要
鋼げた等	トラス・アーチ等		
主げた、主構全数を測定。			
各支点及び各支間中央付近を測定。			
	両端部及び中心部を測定。		
最も外側の主げた又は主構について支点及び支間中央の1点を測定。 L：測線上 (m)			
各主げたについて10～12m間隔を測定。 L：主げたの支間長 (m)	各主構の各格点を測定。 L：主構の支間長 (m)		
どちらか一方の主げた(主構)端を測定。			
各主桁の両端部を測定。 h：主げたの高さ (mm)	支点及び支間中央付近を測定。 h：主構の高さ (mm)		
主げた、主構の全継手数の1/2を測定。 1、2のうち大きいもの 設計値が5mm以下の場合は、マイナスを認めない。			

規格値のL, B, h に代入する数値はm単位の数値である。  
ただし、「主げた、主構の鉛直度」の規格値のhに代入する数値はmm単位の数値とする。

単位：mm

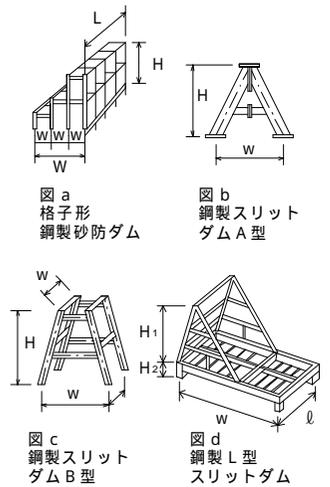
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共通編	2 一般施工	3 共通の工種	14	2	桁製作工 (仮組立検査を実施しない場合)	フランジ幅 $w$ (m)	$\pm 2 \dots\dots$ $w \leq 0.5$
						腹板高 $h$ (m)	$\pm 3 \dots\dots$ $0.5 < w \leq 1.0$
						腹板間隔 $b$ (m)	$\pm 4 \dots\dots$ $1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3+w/2)$ $2.0 < w$
						板鋼げた等の部材の腹板の平面度 (mm)	$h / 250$
						箱げた等のフランジ鋼床版のデッキプレート (mm)	$b / 150$
						フランジの直角度 (mm)	$w / 200$
						部材長 $l$ (m)	$\pm 3 \dots\dots$ $l \leq 10$ $\pm 4 \dots\dots$ $l > 10$

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
主げた、主構 各支点及び各支間中央付近を測定。 床組など 構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測定。	 I型鋼げた	
主げた 各支点及び各支間中央付近を測定。  $h$ : 腹板高 (mm) $b$ : 腹板又はリブの間隔 (mm) $w$ : フランジ幅 (mm)		
		
主要部材全数を測定。		

規格値の  $w, l$  に代入する数値は m 単位の数値である。  
ただし、「板の平面度」, 「フランジの直角度」の規格値の  $h, b, w$  に代入する数値は mm 単位の数値とする。

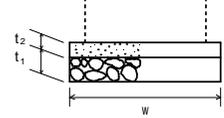
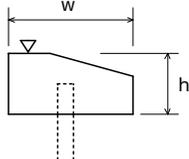
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共通 編	2 一般 施工	3 共通 の工 種	14	3	桁製作工 (鋼製えん堤製作工 (仮組立時))	部材の水平度	10
						堤 長 L	±30
						堤 長 ℓ	±10
						堤 幅 W	±30
						堤 幅 w	±10
						高 さ H	±10
						ベースプレートの高さ	±5
						本体の傾き	±H/0.5
1 共通 編	2 一般 施工	3 共通 の工 種	15		工場塗装工	塗 膜 厚	a . ロット塗膜厚の平均値は、目標塗膜厚合計値の 90%以上。 b . 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の 70%以上。 c . 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の 20%を超えない。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
全数を測定。	 <p>図 a 格子形 鋼製砂防ダム</p> <p>図 b 鋼製スリット ダム A 型</p> <p>図 c 鋼製スリット ダム B 型</p> <p>図 d 鋼製 L 型 スリットダム</p>	
工場塗装終了時に測定。ただし、工場 で上塗りまで塗装する場合は、下塗り 終了時と上塗り終了時に測定。なお、 鋼橋塗装便覧にいう C 塗装系の場合 は、無機ジンクリッチペイントの塗布 後にも測定。 1 ロットの大きさは、500 m <sup>2</sup> とする。 1 ロット当たり測定数は 25 点とし、 各点の測定は 5 回行い、その平均値を その点の測定値とする。		

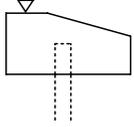
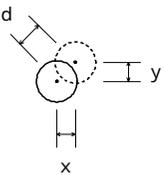
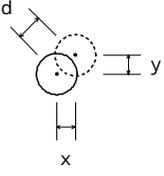
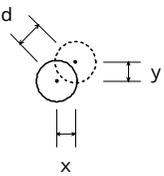
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共通 編	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	16		コンクリート面塗装工	塗 膜 厚	a. ロットの塗膜厚平均値は、目標塗膜厚合計値の90%以上。 b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。 c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%を越えない。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。
1 共通 編	2 一 般 施 工	4 基 礎 工	1		一般事項 (切込砂利) (砕石基礎工) (割ぐり石基礎工) (均しコンクリート)	幅 w	設計値以上
						厚さ $t_1, t_2$	- 30
						延 長 L	各構造物の規格値による
1 共通 編	2 一 般 施 工	4 基 礎 工	3	1	法留基礎工 (現場打)	基 準 高	± 30
						幅 w	- 30
						高 さ h	- 30
						延 長 L	- 200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
塗装終了時に測定。 1 ロットの大きさは 500 m <sup>2</sup> とする。 1 ロット当たりの測定数は 25 点とし、各点の測定は 5 回行い、その平均値をその点の測定値とする。		
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共通 編	2 一 般 施 工	4 基 礎 工	3	2	法留基礎工 (プレキャスト)	基 準 高	±30
						延 長 L	-200
1 共通 編	2 一 般 施 工	4 基 礎 工	4		既製杭工 (既製コンクリート杭) (鋼管杭) (H鋼杭)	基 準 高	±50
						根 入 長	設計値以上
						偏 心 量 d	D/4以内かつ 100以内
1 共通 編	2 一 般 施 工	4 基 礎 工	5		場所打杭工	基 準 高	±50
						根 入 長	設計値以上
						偏 心 量 d	D/4以内かつ 100以内
						杭 径	設計径(公称 径)以上
1 共通 編	2 一 般 施 工	4 基 礎 工	6		深礎工	基 準 高	±50
						根 入 長	設計値以上
						偏 心 量 d	150以内

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所 につき 2 箇所。		
全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	D: 杭径
全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	D: 杭径
全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共通 編	2 一 般 施 工	4 基 礎 工	7		オープンケーソン基礎工	基 準 高	± 100
						ケーソンの長さ ℓ	- 50
						ケーソンの幅 w	- 50
						ケーソンの高さ h	- 100
						ケーソンの壁厚 t	- 20
						偏 心 量 d	300 以内
1 共通 編	2 一 般 施 工	4 基 礎 工	8		ニューマチックケーソン基礎工	基 準 高	± 100
						ケーソンの長さ ℓ	- 50
						ケーソンの幅 w	- 50
						ケーソンの高さ h	- 100
						ケーソンの壁厚 t	- 20
						偏 心 量 d	300 以内
1 共通 編	2 一 般 施 工	4 基 礎 工	9		鋼管矢板基礎工	基 準 高	± 100
						根 入 長	設計値以上
						偏 心 量 d	300 以内

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロットごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロットごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
基準高は、全数を測定。 偏心量は、1基ごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
1 共通編	2 一般施工	5 石・ブロック積(張)工	3	1	コンクリートブロック工 (コンクリートブロック積) (コンクリートブロック張り)	基準高	±50	
						法長 $\ell$	$\ell < 3\text{m}$	- 50
							$\ell \geq 3\text{m}$	- 100
						厚さ(ブロック積張) $t_1$		- 50
						厚さ(裏込) $t_2$		- 50
						延 長 $L$		- 200
1 共通編	2 一般施工	5 石・ブロック積(張)工	3	2	コンクリートブロック工 (連節ブロック張り)	基準高	±50	
						法 長 $\ell$	- 100	
						延長 $L_1, L_2$	- 200	
1 共通編	2 一般施工	5 石・ブロック積(張)工	3	3	コンクリートブロック工 (天端保護ブロック)	基準高	±50	
						幅 $w$	- 100	
						延 長 $L$	- 200	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。厚さは上端部及び下端部の 2 箇所を測定。</p>		
<p>施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。</p>		
<p>施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。</p>		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
1 共通 編	2 一 般 施 工	5 石 ・ ブ ロ ッ ク 積 ( 張 ) 工	4		緑化ブロック工	基 準 高	± 50	
						法 長 ℓ	ℓ < 3 m	- 50
							ℓ ≥ 3 m	- 100
						厚さ(ブロック) t <sub>1</sub>	- 50	
						厚さ(裏込) t <sub>2</sub>	- 50	
						延 長 L	- 200	
1 共通 編	2 一 般 施 工	5 石 ・ ブ ロ ッ ク 積 ( 張 ) 工	5		石積(張)工	基 準 高	± 50	
						法 長 ℓ	ℓ < 3 m	- 50
							ℓ ≥ 3 m	- 100
						厚さ(石積・張) t <sub>1</sub>	- 50	
						厚さ(裏込) t <sub>2</sub>	- 50	
						延 長 L	- 200	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。厚さは上端部及び下端部の 2 箇所を測定。</p>		
<p>施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。厚さは上端部及び下端部の 2 箇所を測定。</p>		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> )	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
1 共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	5	1	アスファルト舗装工 (下層路盤工)	基準高	± 40	± 50		
						厚 さ	- 45	- 45	- 15	- 15
						幅	- 50	- 50		
1 共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	5	2	アスファルト舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	- 25	- 30	- 8	- 10
						幅	- 50	- 50		

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>基準高は延長 40m毎に1箇所の割とし、道路中心線および端部で測定。厚さは各車線 200m毎に1箇所を掘り起こして測定。幅は、延長 80m毎に1箇所の割に測定。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が、3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。</p>	
<p>幅は、延長 80m毎に1箇所の割とし、厚さは各車線 200m毎に1箇所を掘り起こして測定。</p>		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値 の平均 ( $X_{10}$ )	
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下
1 共通 編	2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	5	3	アスファルト舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰) 安定処理工	厚 さ	- 25	- 30	- 8	- 10
						幅	- 50	- 50		
1 共通 編	2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	5	4	アスファルト舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工)	厚 さ	- 15	- 20	- 5	- 7
						幅	- 50	- 50		

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、 厚さは、1,000 m <sup>2</sup> に 1 個の割でコア- を採取もしくは掘り起こして測定。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を 描いた上での管理が可能な工事とい い、基層および表層用混合物の総使用 量が 3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事 より規模は小さいものの、管理結果を 施工管理に反映できる規模の工事をい い、同一工種の施工が数日連続する場 合が該当する。  コア - 採取について 橋面舗装等でコア - 採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合は、 他の方法によることが出来る。	
幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、 厚さは、1,000 m <sup>2</sup> に 1 個の割でコア- を採取して測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値 の平均 ( $X_{10}$ )	
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下
1 共通 編	2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	5	5	アスファルト舗装工 (基層工)	厚 さ	- 9	- 12	- 3	- 4
						幅	- 25	- 25		
1 共通 編	2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	5	6	アスファルト舗装工 (表層工)	厚 さ	- 7	- 9	- 2	- 3
						幅	- 25	- 25		
						平 坦 性			3m <sup>2</sup> メートル ( )2.4mm 以下 直読式 (足付き) ( )1.75mm 以 下	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m毎に 1箇所の割とし、厚さは、1,000 m <sup>2</sup> に 1個の割でコアーを採取して測定。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が 3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工結果に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。  コア - 採取について 橋面舗装等でコア - 採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
幅は、延長 80m毎に 1箇所の割とし、厚さは、1,000 m <sup>2</sup> に 1個の割でコアーを採取して測定。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 ( X )		10 個の測定値 の平均 ( $X_{10}$ )
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上
1 共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	6	1	コンクリート舗装工 (下層路盤工)	基準高	± 40	± 50	
						厚 さ		- 45	- 15
						幅		- 50	
1 共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	6	2	コンクリート舗装工 (粒度調整路盤工)	厚 さ	- 25	- 30	- 8
						幅		- 50	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>基準高は延長 40m毎に 1 箇所の割とし、道路中心線および端部で測定。厚さは各車線 200m毎に 1 箇所を掘り起こして測定。幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割に測定。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模とは、1 層あたりの施工面積が 2,000 m<sup>2</sup>以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500 t 未満あるいは施工面積が 2,000 m<sup>2</sup>未満。厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (<math>X_{10}</math>) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p>	
<p>幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、各車線 200m毎に 1 箇所を掘り起こして</p>	<p>コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。</p>	

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> )
							中規模以上	小規模以下	中規模以上
1 共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	6	3	コンクリート舗装工 (セメント(石灰・瀝青)安定処理工)	厚 さ	- 25	- 30	- 8
						幅	- 50		
1 共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	6	4	コンクリート舗装工 (アスファルト中間層)	厚 さ	- 9	- 12	- 3
						幅	- 25		

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m毎に 1箇所の割とし、厚さは、1,000 m <sup>2</sup> に 1個の割でコアーを採取もしくは掘り起こして測定。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が 2,000 m <sup>2</sup> 以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500 t 未満あるいは施工面積が 2,000 m <sup>2</sup> 未満。 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X <sub>10</sub> ) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。  コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
幅は、延長 80m毎に 1箇所の割とし、厚さは、1,000 m <sup>2</sup> に 1個の割でコアーを採取して測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> )
							中規模以上	小規模以下	中規模以上
1 共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	6	5	コンクリート舗装工 (コンクリート舗装版工)	厚 さ	10		- 3.5
						幅	25		
						平 坦 性	コンクリートの硬化後 3mプロフィルメータ - により機械舗設の場合 ( )2.4mm 以下 人力舗設の場合 ( )3mm 以下		
						目地段差	± 2		
1 共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	6	6	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) 下層路盤工	基準高	± 40	± 50	
						厚 さ	- 45		- 15
						幅	- 50		
1 共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	6	7	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) 粒度調整路盤工	厚 さ	- 25	- 30	- 8
						幅	- 50		

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
厚さは各車線の中心付近で型枠据付後各車線 200m毎に水系又はレベルにより 1 測線当たり横断方向に 3 箇所以上測定、幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割で測定。平坦性は各車線毎に版縁から 1mの線上、全延長とする。	工事規模の考え方 中規模とは、1 層あたりの施工面積が 2,000 m <sup>2</sup> 以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500 t 未満あるいは施工面積が 2,000 m <sup>2</sup> 未満。 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X <sub>10</sub> ) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
隣接する各目地に対して、道路中心線及び端部で測定。		
基準高は、延長 40m毎に 1 箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。厚さは、各車線 200m毎に 1 箇所を掘り起こして測定。幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割に測定。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、各車線 200m毎に 1 箇所を掘り起こして測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> )
							中規模以上	小規模以下	中規模以上
1 共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	6	8	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) セメント(石灰・瀝青)安定処理工	厚 さ	- 25	- 30	- 8
						幅	- 50		
1 共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	6	9	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) アスファルト中間層	厚 さ	- 9	- 12	- 3
						幅	- 25		
1 共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	6	10	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工)	厚 さ	- 15	- 4.5	
						幅	- 35		
						平 坦 性	転圧コンクリートの硬化後、3mプロフィルメーターにより( )2.4mm以下。		
						目地段差	± 2		

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m毎に 1箇所の割とし、厚さは、1,000 m <sup>2</sup> に 1個の割でコアーを採取もしくは、掘り起こして測定。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が 2,000 m <sup>2</sup> 以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500 t 未満あるいは施工面積が 2,000 m <sup>2</sup> 未満。 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X <sub>10</sub> ) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
幅は、延長 80m毎に 1箇所の割とし、厚さは、1,000 m <sup>2</sup> に 1個の割でコアーを採取して測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。  維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
厚さは、各車線の中心付近で型枠据付後各車線 200m毎に水系又はレベルにより 1 測線当たり横断方向に 3 箇所以上測定、幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割で測定、平坦性は各車線毎に版縁から 1mの線上、全延長とする。		
隣接する各目地に対して、道路中心線及び端部で測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> )
							中規模以上	小規模以下	中規模以上
1 共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	1	薄層カラー舗装工 (下層路盤工)	基準高	±40	±50	
						厚 さ	-45		-15
						幅	-50		
1 共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	2	薄層カラー舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	-30	-8
						幅	-50		

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>基準高は、延長 40m毎に 1箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。厚さは、各車線 200m毎に 1箇所を掘り起こして測定。幅は、延長 80m毎に 1箇所の割に測定。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が 2,000 m<sup>2</sup>以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500 t 未満あるいは施工面積が 2,000 m<sup>2</sup>未満。 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X<sub>10</sub>) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p>	
<p>幅は、延長 80m毎に 1箇所の割とし、厚さは、各車線 200m毎に 1箇所を掘り起こして測定。</p>		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> )
							中規模以上	小規模以下	中規模以上
1 共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	3	薄層カラー舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰) 安定処理工	厚 さ	- 25	- 30	- 8
						幅	- 50		
1 共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	4	薄層カラー舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工)	厚 さ	- 15	- 20	- 5
						幅	- 50		
1 共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	5	薄層カラー舗装工 (基層工)	厚 さ	- 9	- 12	- 3
						幅	- 25		

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1,000 m <sup>2</sup> に 1 個の割でコアーを採取もしくは掘り起こして測定。	工事規模の考え方 中規模とは、1 層あたりの施工面積が 2,000 m <sup>2</sup> 以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500 t 未満あるいは施工面積が 2,000 m <sup>2</sup> 未満。 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X <sub>10</sub> ) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1,000 m <sup>2</sup> に 1 個の割でコアーを採取して測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1,000 m <sup>2</sup> に 1 個の割でコアーを採取して測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> )
							中規模以上	小規模以下	中規模以上
1 共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	8	1	ブロック舗装工 (下層路盤工)	基準高	±40	±50	
						厚さ	-45		-15
						幅	-50		
1 共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	8	2	ブロック舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚さ	-25	-30	-8
						幅	-50		

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>基準高は、延長 40m毎に 1 箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。 厚さは、各車線 200m毎に 1 箇所を掘り起こして測定。 幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割に測定。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模とは、1 層あたりの施工面積が 2,000 m<sup>2</sup>以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500 t 未満あるいは施工面積が 2,000 m<sup>2</sup>未満。 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X<sub>10</sub>) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p>	
<p>幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、各車線 200m毎に 1 箇所を掘り起こして測定。</p>		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> )
							中規模以上	小規模以下	中規模以上
1 共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	8	3	ブロック舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰) 安定処理工	厚 さ	- 25	- 30	- 8
						幅	- 50		
1 共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	8	4	ブロック舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工)	厚 さ	- 15	- 20	- 5
						幅	- 50		
1 共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	8	5	ブロック舗装工 (基層工)	厚 さ	- 9	- 12	- 3
						幅	- 25		

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1,000 m <sup>2</sup> に 1 個の割でコアーを採取もしくは掘り起こして測定。	工事規模の考え方 中規模とは、1 層あたりの施工面積が 2,000 m <sup>2</sup> 以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500 t 未満あるいは施工面積が 2,000 m <sup>2</sup> 未満。 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X <sub>10</sub> ) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1,000 m <sup>2</sup> に 1 個の割でコアーを採取して測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1,000 m <sup>2</sup> に 1 個の割でコアーを採取して測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共通 編	2 一 般 施 工	7 地 盤 改 良 工	2		路床安定処理工	基 準 高	± 50
						施 工 厚 さ t	- 50
						幅 w	- 100
						延 長 L	- 200
1 共通 編	2 一 般 施 工	7 地 盤 改 良 工	3		置換工	基 準 高	± 50
						置換厚さ t	- 50
						幅 w	- 100
						延 長 L	- 200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>延長 40m毎に 1箇所割で測定。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。 厚さは中心線及び端部で測定。</p>		
<p>施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1箇所、延長 40m (50m) 以下のものは 1施工箇所につ き 2箇所。 厚さは中心線及び端部で測定。</p>		

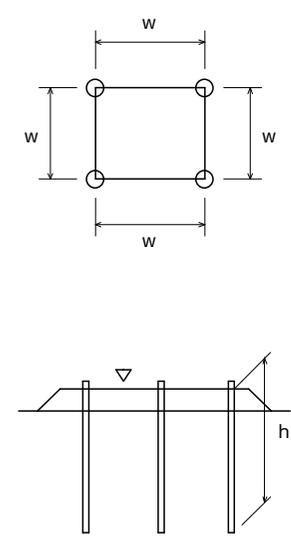
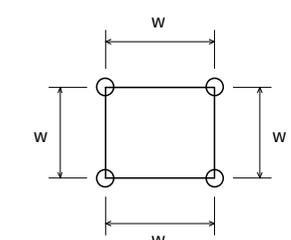
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共通編	2 一般施工	7 地盤改良工	4	2	表層安定処理工 (サンドマット海上)	基 準 高	特記仕様書に 明示
						法 長 $l$	- 500
						天 端 幅 $w$	- 300
						天端延長 $L$	- 500
1 共通編	2 一般施工	7 地盤改良工	5		パイルネット工	基 準 高	± 50
						厚 さ $t$	- 50
						幅 $w$	- 100
						延 長 $L$	- 200
1 共通編	2 一般施工	7 地盤改良工	6		サンドマット工	施工厚さ $t$	- 50
						幅 $w$	- 100
						延 長 $L$	- 200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>施工延長 10mにつき、1測点当たり5点以上測定。</p> <p><math>w \cdot (L)</math> は施工延長 40mにつき 1箇所、80m以下のものは1施工箇所につき 3箇所。 (<math>L</math>) はセンターライン及び表裏法肩で行う。</p>		
<p>施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1箇所。 厚さは中心線及び両端で掘り起こして測定。 杭については、当該杭の項目に準ずる。</p>		
<p>施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1箇所。 厚さは中心線及び両端で掘り起こして測定。</p>		

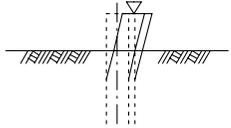
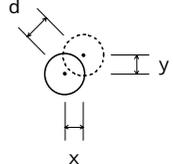
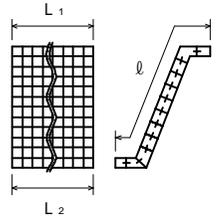
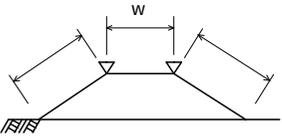
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共通 編	2 一 般 施 工	7 地 盤 改 良 工	7		パーチカルドレーン工 (サンドドレーン工) (ペーパードレーン工) (袋詰式サンドドレーン工)	位置・間隔 w	±100
						杭 径 D	設計値以上
			8		締固め改良工 (サンドコンパクション ンパイル工)	打 込 長 さ h	設計値以上
						サンドドレーン、袋詰 式サンドドレーン、サ ンドコンパクションパ イルの砂投入量	
1 共通 編	2 一 般 施 工	7 地 盤 改 良 工	9		固結工 (粉体噴射攪拌工) (高圧噴射攪拌工) (スラリー攪拌工) (生石灰パイル工)	基 準 高	- 50
						位置・間隔 w	D / 4 以内
						杭 径 D	設計値以上
						深 度 ℓ	設計値以上

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
100 本に 1 箇所。 100 本以下は 2 箇所測定。1 箇所に 4 本測定。 ただし、ペーパードレーンの杭径は対 象外とする。 全本数	 <p>余長は、適用除外</p>	
全本数 計器管理にかえることができる。		
100 本に 1 箇所。 100 本以下は 2 箇所測定。 1 箇所に 4 本測定。 全本数		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共通 編	2 一 般 施 工	10 仮 設 工	5	1	土留・仮締切工 (H鋼杭) (鋼矢板)	基 準 高	± 100
						根 入 長	設計値以上
1 共通 編	2 一 般 施 工	10 仮 設 工	5	2	土留・仮締切工 (アンカー工)	削 孔 深 さ $\ell$	設計深さ以上
						配 置 誤 差 $d$	100
1 共通 編	2 一 般 施 工	10 仮 設 工	5	3	土留・仮締切工 (連節ブロック張り工)	法 長 $\ell$	- 100
						延 長 $L_1, L_2$	- 200
1 共通 編	2 一 般 施 工	10 仮 設 工	5	4	土留・仮締切工 (締切盛土)	基 準 高	- 50
						天 端 幅 $w$	- 100
						法 長 $\ell$	- 100

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
基準高は施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所。延長 40m (又は 50m) 以下のものは、1 施工箇所につき 2 箇所。 (任意仮設は除く)		
全数 (任意仮設は除く)	 $d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。  1 施工箇所毎		
施工延長 50mにつき 1 箇所。 延長 50m以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 (任意仮設は除く)		

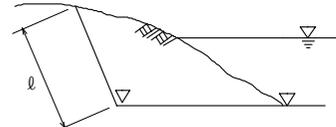
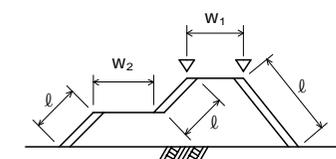
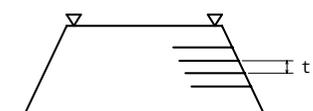
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値		
1 共通 編	2 一 般 施 工	10 仮 設 工	5	5	土留・仮締切工 (中詰盛土)	基 準 高	- 50		
1 共通 編	2 一 般 施 工	10 仮 設 工	9		地中連続壁工(壁式)	基 準 高	± 50		
						連壁の長さ $l$	- 50		
						変 位	300		
						壁 体 長 $L$	- 200		
1 共通 編	2 一 般 施 工	10 仮 設 工	10		地中連続壁工(柱列式)	基 準 高	± 50		
						連壁の長さ $l$	- 50		
						変 位	D/4 以内		
						壁 体 長 $L$	- 200		
1 共通 編	2 一 般 施 工	10 仮 設 工	20		法面吹付工	法 長 $l$	$l < 3\text{ m}$	- 50	
							$l \geq 3\text{ m}$	- 100	
						厚 さ $t$	$t < 5\text{ cm}$	- 10	
							$t \geq 5\text{ cm}$	- 20	
						但し、吹付面に凹凸がある場合の 最小吹付厚は、設計厚の 50% 以上 とし、平均厚は設計厚以上			
						延 長 $L$			- 200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>施工延長 50m につき 1 箇所。 延長 50m 以下のものは、1 施工箇所につき 2 箇所。 (任意仮設は除く)</p>		
<p>基準高は施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所。延長 40m (又は 50m) 以下のものについては 1 施工箇所につき 2 箇所。 変位は施工延長 20m (測点間隔 25m の場合は 25m) につき 1 箇所。延長 20m (又は 25m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。</p>		
<p>基準高は施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所。延長 40m (又は 50m) 以下のものについては 1 施工箇所につき 2 箇所。 変位は施工延長 20m (測点間隔 25m の場合は 25m) につき 1 箇所。延長 20m (又は 25m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。</p>		D : 杭径
<p>施工延長 40m につき 1 箇所、40m 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。  200 m<sup>2</sup> につき 1 箇所以上、200 m<sup>2</sup> 以下は 2 箇所をせん孔により測定。</p>		
1 施工箇所毎		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
1 共通 編	3 土 工	3 河 川 ・ 海 岸 ・ 砂 防 土 工	2		掘削工	基 準 高	± 50	
						法 長 ℓ	ℓ < 5 m	- 200
							ℓ ≥ 5 m	法長 - 4 %
1 共通 編	3 土 工	3 河 川 ・ 海 岸 ・ 砂 防 土 工	3		盛土工	基 準 高	- 50	
						法 長 ℓ	ℓ < 5 m	- 100
							ℓ ≥ 5 m	法長 - 2 %
						幅 w <sub>1</sub> , w <sub>2</sub>	- 100	
1 共通 編	3 土 工	3 河 川 ・ 海 岸 ・ 砂 防 土 工	4		盛土補強工 (補強土(テールアルメ)壁工法) (多数アンカー式補強土工法) (ジオテキスタイルを用いた補強土工法)	基 準 高	- 50	
						厚 さ t	- 50	
						控 え 長 さ	設計値以上	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 基準高は掘削部の両端で測定。</p>		
<p>施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 基準高は各法肩で測定。</p>		
<p>施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。</p>		

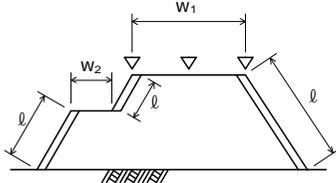
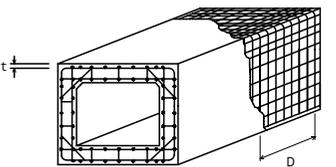
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
1 共通 編	3 土 工	3 河 川 ・ 海 岸 ・ 砂 防 土 工	4		盛土補強工 (補強土(テールアル メ)壁工法) (多数アンカー式補強 土工法) (ジオテキスタイルを 用いた補強土工法)	基 準 高	±50 舗装面と接す る場合 ±30	
						高 さ h	h < 3 m	- 50
							h ≥ 3 m	- 100
						鉛 直 度	±0.03hかつ ±300以内	
						控 え 長 さ	設計値以上	
延 長 L	- 200							
1 共通 編	3 土 工	3 河 川 ・ 海 岸 ・ 砂 防 土 工	5		法面整形工(盛土部)	厚 さ t	- 30	
1 共通 編	3 土 工	3 河 川 ・ 海 岸 ・ 砂 防 土 工	6		堤防天端工	厚 さ t	t < 15cm - 25 t ≥ 15cm - 50	
						幅 w	- 100	
1 共通 編	3 土 工	4 道 路 土 工	2		掘削工	基 準 高	±50	
						法 長 ℓ	ℓ < 5 m	- 200
							ℓ ≥ 5 m	法長 - 4%
幅 w	- 100							

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所 につき 2 箇所		
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所 につき 2 箇所、法の中央で測定。 土羽打ちのある場合に適用。		
幅は、施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工 箇所につき 2 箇所。 厚さは、施工延長 200m につき 1 箇 所、200m 以下は 2 箇所、中央で測 定。		
施工延長 40mにつき 1 箇所、延長 40 m以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇 所。 基準高は、道路中心線及び端部で測 定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
1 共通 編	3 土 工	4 道 路 土 工	3 4		路体盛土工 路床盛土工	基 準 高	±50	
						法 長 ℓ	ℓ < 5 m	- 100
							ℓ ≥ 5 m	法長 - 2 %
						幅	w <sub>1</sub> , w <sub>2</sub>	- 100
1 共通 編	3 土 工	4 道 路 土 工	5		法面整形工（盛土部）	厚 さ t	- 30	
1 共通 編	4 無 筋 、 鉄 筋 コ ン ク リ ー ト	7 鉄 筋	4		鉄筋の組立て	平 均 間 隔 d	±	
						か ぶ り i	± かつ 最小かぶり 以内	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>施工延長 40mにつき1箇所、延長 40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。</p> 		
<p>施工延長 40mにつき1箇所、延長 40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。法の中央で測定。 土羽打ちのある場合に適用。</p> 		
<p><math>d = \frac{D}{n-1}</math></p> <p>D：本間の長さ n：10本程度とする ：鉄筋径</p> <p>工事の規模に応じて、1リフト、1ロット当たりに対して各面で一箇所以上測定する。最小かぶりは、コンクリート標準示方書（構造性能照査編 9.2）参照</p> <p>重要構造物かつ主鉄筋について適用する</p> 		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共通 編	5 共通 施工	1 共通 関係	1		現場塗装工	塗 膜 厚	a . ロットの塗膜厚平均値は、目標塗膜厚合計値の 90%以上。 b . 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の 70%以上。 c . 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の 20%を超えない。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
塗装終了時に測定。 1 ロットの大きさは 500 m <sup>2</sup> とする。 1 ロット当たりの測定数は 25 点とし、各点の測定は 5 回行い、その平均値をその点の測定値とする。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
1 共通 編	5 共通 施工	1 共通 関係	2		場所打擁壁工	基 準 高	±50 舗装面と接する 場合 ±30	
						厚 さ t	- 20	
						裏 込 厚 さ	- 50	
						幅 $w_1, w_2$	- 30	
						高 さ h	$h < 3\text{ m}$	- 50
							$h \geq 3\text{ m}$	- 100
延 長 L	- 200							
1 土木 工事 共通 編	5 共通 施工	1 共通 関係	3		プレキャスト擁壁工	基 準 高	±50 舗装面と接する 場合 ±30	
						延 長 L	- 200	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所 につき 2 箇所。</p>		
<p>1 施工箇所毎</p>		
<p>1 施工箇所毎</p>		
<p>施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所 につき 2 箇所。</p>		
<p>1 施工箇所毎</p>		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
1 共通 編	5 共通 施工	1 共通 関係	4		井桁ブロック工	基準高	±50	
						法 長 ℓ	高さ h < 3 m	- 50
							高さ h ≧ 3 m	- 100
						厚さ t <sub>1</sub> , t <sub>2</sub> , t <sub>3</sub>	- 50	
延 長 L <sub>1</sub> , L <sub>2</sub>	- 200							
1 共通 編	5 共通 施工	1 共通 関係	5		アンカー工	削孔深さ ℓ	設計値以上	
						配置誤差 d	100	
						せん孔方向	±2.5度	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。</p>		
1 施工箇所毎		
全数 (任意仮設は除く)	<p><math>d = \sqrt{x^2 + y^2}</math></p>	

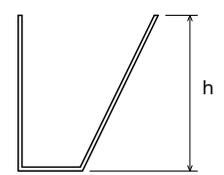
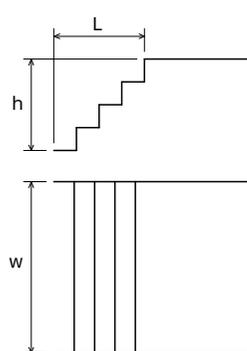
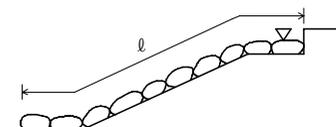
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共通 編	5 共通 施工	1 共通 関係	6		側溝工 (プレキャストU型側溝) (L型側溝工) (自由勾配側溝) (管渠)	基 準 高	±30
						延 長 L	- 200
1 共通 編	5 共通 施工	1 共通 関係	7		現場打水路工	基 準 高	±30
						厚 さ $t_1, t_2$	- 20
						幅 $w$	- 30
						高 さ $h_1, h_2$	- 30
						延 長 L	- 200
1 共通 編	5 共通 施工	1 共通 関係	8		集水桝工	基 準 高	±30
						厚 さ $t_1 \sim t_5$	- 20
						幅 $w_1, w_2$	- 30
						高 さ $h_1, h_2$	- 30
1 共通 編	5 共通 施工	1 共通 関係	9		暗渠工	基 準 高	±30
						幅 $w_1, w_2$	- 50
						深 さ $h$	- 30
						延 長 L	- 200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 箇所、施工延長 40 m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇 所につき 2 箇所。 1 箇所 / 1 施工箇所</p>		
<p>施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 箇所、施工延長 40 m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇 所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎</p>		
<p>1 箇所毎 は、現場打部分のある場合</p>		
<p>施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 箇所。 延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工につき 2 箇所。 (なお、製品使用の場合は、製品寸法 は、規格証明書等による。) 1 施工箇所毎</p>		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共通 編	5 共通 施工	1 共通 関係	10		刃口金物製作工	刃口高さ h (m)	± 2 ..... h 0.5 ± 3 ..... 0.5 < h 1.0 ± 4 ..... 1.0 < h 2.0
						外周長 L (m)	± (10+L/10)
1 共通 編	5 共通 施工	1 共通 関係	11		階段工	幅 w	- 30
						高さ h	- 30
						長さ L	- 30
						段数	± 0 段
1 共通 編	5 共通 施工	2 河川 関係	1		巨石張り、巨石積み	基準高	± 500
						法長 ℓ	- 200
						延長 L	- 200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
図面の寸法表示箇所で測定。		
1回 / 1 施工箇所		
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		

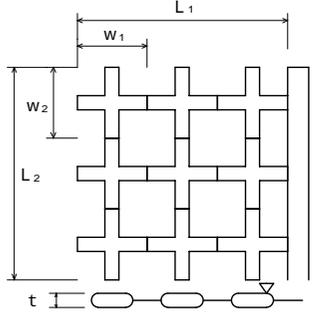
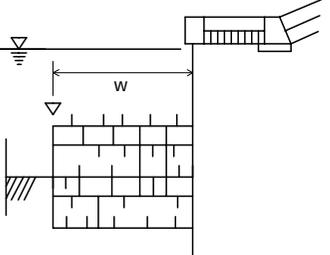
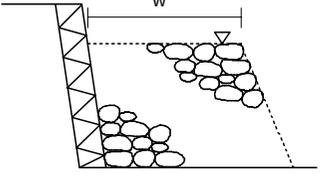
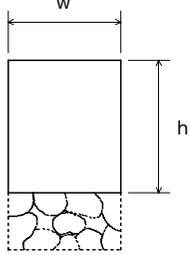
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共通 編	5 共通 施工	2 河川 関係	2		かごマット	法 長 $\ell$	- 100
						厚 さ $t$	- 0.2 $t$
						延 長 $L$	- 200
1 共通 編	5 共通 施工	2 河川 関係	3		じゃかご	法長 $\ell$	$\ell < 3\text{ m}$ - 50 $\ell = 3\text{ m}$ - 100
						厚 さ $t$	- 50
1 共通 編	5 共通 施工	2 河川 関係	4		ふとんかご、かご枠	高 さ $h$	- 100
						延 長 $L_1, L_2$	- 200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。</p>		
<p>施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。</p>		
<p>施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。</p>		

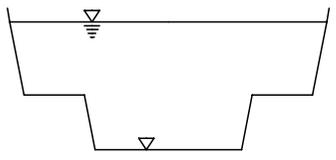
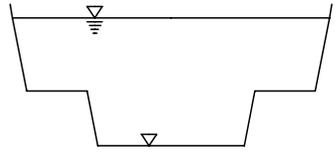
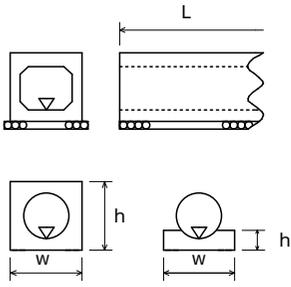
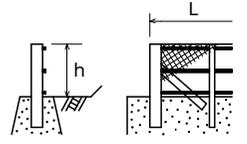
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
1 共通 編	5 共通 施工	2 河川 関係	5		根固めブロック工	基準高	層 積	±100
							乱 積	± t / 2
							厚 さ t	- 20
						幅 w <sub>1</sub> w <sub>2</sub>	層 積	- 20
							乱 積	- t / 2
						延長 L <sub>1</sub> L <sub>2</sub>	層 積	- 200
							乱 積	- t / 2
						1 共通 編	5 共通 施工	2 河川 関係
幅 w	±300							
延長 L	- 200							
1 共通 編	5 共通 施工	2 河川 関係	7		捨石工	基準高	- 100	
						幅 w	- 100	
						延長 L	- 200	
1 共通 編	5 共通 施工	2 河川 関係	8		護岸付属物工	幅 w	- 30	
						高さ h	- 30	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 幅、厚さは 40 個につき 1 箇所測定。</p> <p>1 施工箇所毎</p>		
<p>1 組毎</p>		
<p>施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。</p>		
<p>各格子間の中央部 1 箇所を測定。</p>		

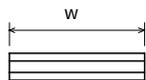
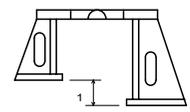
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
1 共通編	5 共通施工	3 海岸関係	1	1	浚渫船運転工 (ポンプ浚渫船)	基準高	200ps	上限 +200 下限 - 800
							500ps	+200 - 1000
							1000ps	+200 - 1200
							250ps	+200 - 800
							420ps 600ps	+200 - 1000
							1350ps	+200 - 1200
							幅	- 200
							延長	- 200
1 共通編	5 共通施工	3 海岸関係	1	2	浚渫船運転工 (グラブ船)	基準高	上限 +200	
						幅	- 200	
						延長	- 200	
1 共通編	5 共通施工	4 道路関係	1		プレキャストカルバート工 (プレキャストボックス工) (プレキャストパイプ工)	基準高	±30	
						幅 w	- 50	
						高さ h	- 30	
						延長 L	- 200	
1 共通編	5 共通施工	4 道路関係	2		落石防護柵工	高さ h	±30	
						延長 L	- 200	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>延長方向は、設計図書により指定された測点毎。 横断方向は、5 m毎。 また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点も加える。ただし、各測定値の平均値の設計基準高以下であること。</p>		
<p>延長方向は、設計図書により指定された測点毎。 横断方向は、5 m毎。 また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点も加える。ただし、各測定値の平均値の設計基準高以下であること。</p>		
<p>施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、施工延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 印は、現場打部分のある場合。</p> <p>1 施工箇所毎</p>		
<p>施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、施工延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。</p> <p>1 施工箇所毎</p>		

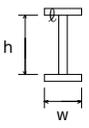
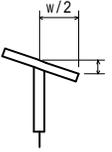
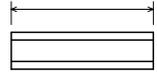
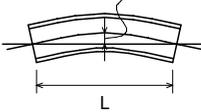
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共通編	5 共通施工	4 道路関係	3		検査路製作工	部材	部材長 $l$ (m) $\pm 3 \dots\dots$ $\phantom{\pm 3 \dots\dots} l \leq 10$ $\pm 4 \dots\dots$ $\phantom{\pm 4 \dots\dots} l > 10$
1 共通編	5 共通施工	4 道路関係	4		鋼製伸縮継手製作工	部材	部材長 $w$ (m) 0 ~ +30
						仮組立時	組合せる伸縮装置との高さの差 $1$ (mm) 設計値 $\pm 4$
							フィンガーの食い違い $2$ (mm) $\pm 2$
1 共通編	5 共通施工	4 道路関係	5		落橋防止装置製作工	部材	部材長 $l$ (m) $\pm 3 \dots\dots$ $\phantom{\pm 3 \dots\dots} l \leq 10$ $\pm 4 \dots\dots$ $\phantom{\pm 4 \dots\dots} l > 10$
1 共通編	5 共通施工	4 道路関係	6		鋼製排水管製作工	部材	部材長 $l$ (m) $\pm 3 \dots\dots$ $\phantom{\pm 3 \dots\dots} l \leq 10$ $\pm 4 \dots\dots$ $\phantom{\pm 4 \dots\dots} l > 10$

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
図面の寸法表示箇所にて測定。		
製品全数を測定。		
両端及び中央部付近を測定。	  (実測値) $2$ 	
図面の寸法表示箇所にて測定。		
図面の寸法表示箇所にて測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
1 共通 編	5 共通 施工	4 道路 関係	7		プレビーム用桁製作工	フランジ幅 w (m) 腹板高 h (m)	± 2 ... w 0.5 ± 3 ... 0.5 < w 1.0 ± 4 ... 1.0 < w 2.0 ± ( 3 + w / 2 ) ... 2.0 < w	
						部 材	フランジの直角度 (mm)	w / 200
							部材長 l (m)	± 3 ... l 10 ± 4 ... l > 10
						仮 組 立 時	主げたのそり	- 5 ~ + 5 ... L 20 - 5 ~ + 10 ... 20 < L 40
1 共通 編	5 共通 施工	4 道路 関係	8		橋梁用防護柵製作工	部 材 長 l (m)	± 3 ..... l 10 ± 4 ..... l > 10	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
各支点及び各支間中央付近を測定。	 <p>I型鋼げた</p>	
各支点及び各支間中央付近を測定。		
原則として仮組立をしない部材について主要部材全数で測定。		
各主げたについて 10 ~ 12m 間隔を測定。		
図面の寸法表示箇所を測定。		

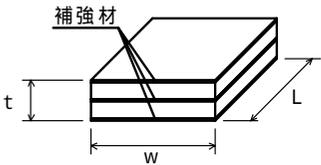
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値		
1 共通編	5 共通施工	4 道路関係	9	1	鑄造費 (金属支承工)	上下部 構造物との 接合用ボルト孔	孔の直径差	+ 2 - 0	
						中心距離	センターボスを基準にした孔位置のずれ		
							1000mm	± 1	
							センターボスを基準にした孔位置のずれ		
							> 1000mm	± 1.5	
						アンカー ボルト孔	孔の直径	100mm	+ 3 - 1
							> 100mm		+ 4 - 2
						センター ボス	孔の中心距離		JIS B 0412 並級
							ボスの直径		+ 0 - 1
							ボスの高さ		+ 1 - 0

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
製品全数を測定。		

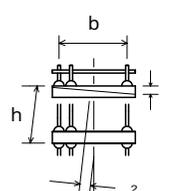
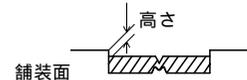
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値		
1 共通編	5 共通施工	4 道路関係	9	1	鑄造費 (金属支承工)	上沓の橋軸及び直角方向の長さ寸法	JIS B 0412 中級		
						全移動量 $\ell$	$\ell \leq 300\text{mm}$	$\pm 2$	
							$\ell > 300\text{mm}$	$\pm \ell / 100$	
						組立絶対高さ H	上、下面加工仕上げ		$\pm 3$
							コンクリート構造用	H $\leq 300\text{mm}$	$\pm 3$
								H $> 300\text{mm}$	(H/200+3) 小数点以下切り捨て
						普通寸法	鑄放し長さ寸法		JIS B 0412 並級
鑄放し肉厚寸法		JIS B 0412 並級							
機械加工寸法		JIS B 0405 粗級							
1 共通編	5 共通施工	4 道路関係	9	2	鑄造費 (大型ゴム支承工)	幅 w 長さ L 直径 D	w, L, D $\leq 500$	0 ~ + 5	
							500 < w, L, D $\leq 1500\text{mm}$	0 ~ + 1 %	
							1500 < w, L, D	0 ~ + 15	
						厚さ t	t $\leq 20\text{mm}$	0 ~ + 1	
							20 < t $\leq 160$	0 ~ + 5 %	
							160 < t	0 ~ + 8	
						平 面 度		1	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
		製品全数を測定。
		製品全数を測定。 平面度：1個のゴム支承の厚さ ( t ) の最大相対誤差
		

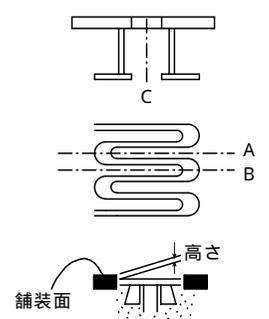
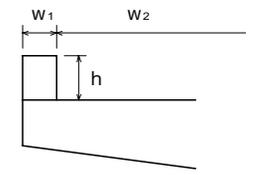
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共通 編	5 共通 施工	4 道路 関係	10		アンカーフレーム製作工	仮組立時 上面水平度 <sub>1</sub> (mm)	b / 500
						鉛直度 <sub>2</sub> (mm)	h / 500
						高さ h (mm)	± 5
1 共通 編	5 共通 施工	4 道路 関係	11		仮設材製作工	部材 部材長 ℓ (m)	± 3 ..... ℓ ≤ 10 ± 4 ..... ℓ > 10
1 共通 編	5 共通 施工	4 道路 関係	12		床版・横組工	基準高	± 20
						幅 w	0 ~ + 30
						厚 さ t	- 10 ~ + 20
						鉄筋のかぶり	設計値以上
						鉄筋の有効高さ	± 10
						鉄筋間隔	± 20
上記鉄筋の有効高さがマイナスの場合	± 10						
1 共通 編	5 共通 施工	4 道路 関係	13	1	伸縮装置工 (ゴムジョイント)	据付け高さ	舗装面に対し 0 ~ - 2
						表面の凹凸	3
						仕上げ高さ	舗装面に対し 0 ~ - 2

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
軸心上全数測定。		
図面の寸法表示箇所測定。		
基準高は、1径間当たり2箇所(支点付近)で、1箇所当たり両端と中央部の3点、幅は1径間当たり3箇所、厚さは型枠設置時におおむね10mmに1箇所測定。 (床版の厚さは、型枠検査をもって代える。) 1径間当たり3断面(両端及び中央)測定。1断面の測定箇所は断面変化毎1箇所とする。 1径間当たり3箇所(両端及び中央)測定。 1箇所の測定は、橋軸方向の鉄筋は全数、橋軸直角方向の鉄筋は加工形状毎に2mの範囲を測定。		
両端及び中央部付近を測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共通 編	5 共通 施工	4 道路 関係	13	2	伸縮装置工 (鋼製フィンガージョ イント)	高さ 据付け高さ	± 3
						車線方向各点誤差 の相対差	3
						表面の凹凸	3
						歯型板面の歯咬み合い 部の高低差	2
						縦方向間隔	± 2
						横方向間隔	± 5
						仕上げ高さ	舗装面に対し 0 ~ - 2
1 共通 編	5 共通 施工	4 道路 関係	14		地覆工	地覆の幅 $w_1$	- 10 ~ + 20
						地覆の高さ $h$	- 10 ~ + 20
						有効幅員 $w_2$	0 ~ + 30
1 共通 編	5 共通 施工	4 道路 関係	15		橋梁用防護柵工 橋梁用高欄工	幅	- 5 ~ + 10
1 共通 編	5 共通 施工	4 道路 関係	16		検査路工	幅	± 3
						高さ	± 4

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
高さについては車道端部、中央部各3点計9点。 縦方向及び横方向間隔は両端、中央部の計3点。		
1 径間当たり両端と中央部の3箇所測定。		
1 径間当たり両端と中央部の3箇所測定。		
1 ブロックを抽出して測定。		

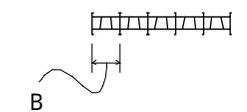
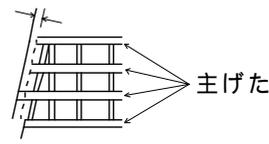
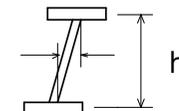
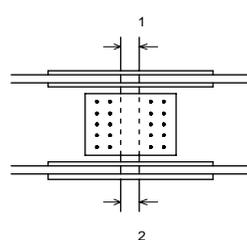
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値		
							コンクリート橋	鋼橋	
1 共通編	5 共通施工	4 道路関係	17	1	支承工 (鋼製支承)	据付け高さ 注1)	±5		
						可動支承の移動 可能量 注2)	設計移動量 ±10 以上		
						支承中心間隔 (橋軸直角方向)	±5	4 + 0.5 × (B - 2)	
						下 沓 の 水 平 度	橋軸方向	1 / 100	
							橋軸直角方向		
						可動支承の橋軸 方向のずれ 同一支承線上の 相対誤差	5		
可動支承の 移動量 注3)	温度変化に伴う移動 量計算値の 1/2 以上								
1 共通編	5 共通施工	4 道路関係	17	2	支承工 (ゴム支承)	据付け高さ 注1)	±5		
						可動支承の移動 可能量 注2)	設計移動量 ±10 以上		
						支承中心間隔 (橋軸直角方向)	±5	4 + 0.5 × (B - 2)	
						支 承 の 水 平 度	橋軸方向	1 / 300	
							橋軸直角方向		
						可動支承の橋軸 方向のずれ 同一支承線上の 相対誤差	5		
可動支承の 移動量 注3)	温度変化に伴う移動 量計算値の 1/2 以上								

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>支承全数を測定。 B：支承中心間隔 (m)</p> <p>支承の平面寸法が 300mm 以下の場合は、水平面の高低差を 1mm 以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注 1) 先固定の場合は、支承上面で測定する。 注 2) 可動支承の遊間 (La, Lb) を計測し、支承据付時のオフセット量を考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注 3) 可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。</p>		
<p>支承全数を測定。 上部構造部材下面とゴム支承面との接触面及びゴム支承と台座モルタルとの接触面に肌すきが無いことを確認。 支承の平面寸法が 300mm 以下の場合は、水平面の高低差を 1mm 以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注 1) 先固定の場合は、支承上面で測定する。 注 2) 可動支承の遊間 (La, Lb) を計測し、支承据付時のオフセット量を考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注 3) 可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。</p>		

単位：mm

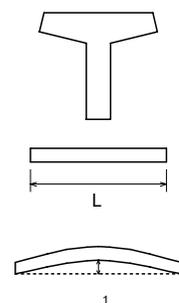
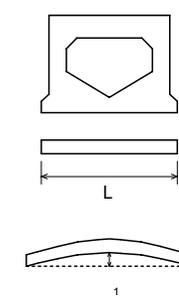
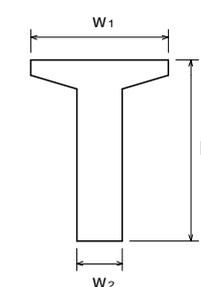
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共通 編	5 共通 施工	4 道路 関係	18		架設工（鋼橋） （クレーン架設） （ケーブルクレーン架設） （ケーブルエレクション架設） （架設桁架設） （送出し架設） （トラペラークレーン架設）	全長・支間長	$\pm (20+L/5)$
						通 り	$\pm (10+L/5)$
						そ り	$\pm (25+L/2)$
						主げた、主構の 中心間距離 B(m)	$\pm 4 \dots\dots$ B 2 $\pm (3+B/2) \dots\dots$ B > 2
						主げたの橋端に おける出入差 (mm)	設計値 $\pm 10$
						主げた、主構の 鉛直度 (mm)	$3+h/1,000$
現場継手部の すき間 1, 2 (mm)	設計値 $\pm 5$						

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
各けた毎に全数測定。 L：主げた・主構の支間長(m) L：主げた・主構の支間長(m)		
主げた、主構を全数測定。 L：主げた・主構の支間長(m) 各支点及び各支間中央付近を測定。		
どちらか一方の主げた（主構）端を測定。		
各主げたの両端部を測定。 h：主げた・主構の高さ(mm)		
主げた、主構の全継手数の 1 / 2 を測定。 1, 2 のうち大きいもの 設計値が 5 mm 以下の場合、マイナスを認めない。		
は仮組立検査を実施しない工事に適用。		

規格値のL, B に代入する数値はm単位の数値である。  
ただし、「主げた、主構の鉛直度」の規格値のh に代入する数値はmm単位の数値とする。

単位：mm

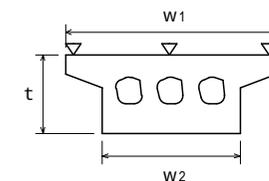
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共通 編	5 共通 施工	4 道路 関係	19	1	プレテンション桁製作工 (購入工)  (けた橋)	桁長 L (m)	$\pm L / 1000$
						断面の外形寸法	$\pm 5$
						橋 桁 の そり 1	$\pm 8$
						横方向の曲がり 2	$\pm 10$
1 共通 編	5 共通 施工	4 道路 関係	19	2	プレテンション桁製作工 (購入工)  (スラブ桁)	桁長 L (m)	$\pm 10 \dots$ L 10m $\pm L / 1000 \dots$ L > 10m
						断面の外形寸法	$\pm 5$
						橋 桁 の そり 1	$\pm 8$
						横方向の曲がり 2	$\pm 10$
1 共通 編	5 共通 施工	4 道路 関係	20		ポストテンション桁 製作工	幅 (上) $w_1$	+ 10 - 5
						幅 (下) $w_2$	$\pm 5$
						高 さ h	+ 10 - 5
						桁 長 $\ell$ 支 間 長	$\ell < 15 \dots \pm 10$ $\ell \geq 15 \dots \pm (\ell - 5)$ かつ - 30mm 以内
					横方向最大タワミ	$0.8 \ell$	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JIS 製品の場合は、JIS 認定工場の成績表にかえることができる。 JIS 製品以外は JIS 製品に準ずる。		
桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JIS 製品の場合は、JIS 認定工場の成績表にかえることができる。 JIS 製品以外は JIS 製品に準ずる。		
桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレスング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 $\ell$ : 支間長 (m)		

単位：mm

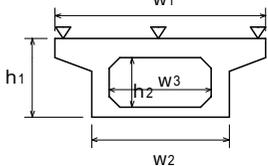
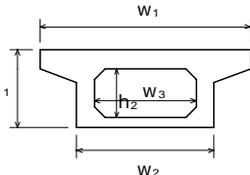
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共通 編	5 共通 施工	4 道路 関係	21		プレキャストセグメント 製作工（購入工）	桁 長 $\ell$	
						断面の外形寸法（mm）	
1 共通 編	5 共通 施工	4 道路 関係	22		プレキャストセグメント 主桁組立工	桁 長 $\ell$ 支 間 長	$\ell < 15 \dots \pm 10$ $\ell \ 15 \dots \pm$ $(\ell - 5)$ かつ - 30mm 以内
						横方向最大タワミ	$0.8 \ell$
1 共通 編	5 共通 施工	4 道路 関係	23		P Cホロースラブ製作工	基 準 高	$\pm 20$
						幅 $w_1, w_2$	- 5 ~ + 30
						厚 さ $t$	- 10 ~ + 20
						桁 長 $\ell$ 支 間 長	$\ell < 15 \dots \pm 10$ $\ell \ 15 \dots \pm$ $(\ell - 5)$ かつ - 30mm 以内

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
		桁全数について測定。桁断面寸法測定箇所は、図面の寸法表示箇所にて測定。
		桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 $\ell$ ：支間長（m）
		桁全数について測定。 基準高は、1径間当たり2箇所（支点付近）で1箇所当たり両端と中央部の3点、幅及び厚さは1径間当たり両端と中央部の3箇所。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 $\ell$ ：支間長（m）



単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共通 編	5 共通 施工	4 道路 関係	24		P C 箱桁製作工	基 準 高	±20
						幅(上) $w_1$	- 5 ~ +30
						幅(下) $w_2$	- 5 ~ +30
						内 空 幅 $w_3$	± 5
						高 さ $h_1$	+10 - 5
						内空高さ $h_2$	+10 - 5
						桁 長 $l$ 支 間 長	$l < 15... ± 10$ $l \geq 15... ± (l - 5)$ かつ - 30mm 以内
1 共通 編	5 共通 施工	4 道路 関係	25		P C 押し箱桁製作工	幅(上) $w_1$	- 5 ~ +30
						幅(下) $w_2$	- 5 ~ +30
						内 空 幅 $w_3$	± 5
						高 さ $h_1$	+10 - 5
						内空高さ $h_2$	+10 - 5
						桁 長 $l$ 支 間 長	$l < 15... ± 10$ $l \geq 15... ± (l - 5)$ かつ - 30mm 以内
1 共通 編	5 共通 施工	4 道路 関係	26		架設工(コンクリート橋)  (クレーン架設) (架設桁架設)  架設工支保工 (固定) (移動)  架設桁架設 (片持架設) (押し架設)	全 長・支 間	
						桁の中心間距離	
						そ り	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>桁全数について測定。 基準高は、1径間当たり2箇所(支点付近)で1箇所当たり両端と中央部の3点、幅及び高さは1径間当たり両端と中央部の3箇所。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 <math>l</math> : 支間長 (m)</p>		
<p>桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 <math>l</math> : 支間長 (m)</p>		
<p>各桁毎に全数測定。  一連毎の両端及び支間中央について各上下間を測定。 主桁を全数測定。</p>		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> )	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
1 共通 編	5 共通 施工	4 道路 関係	27	1	半たわみ性舗装工 (下層路盤工)	基準高	± 40	± 50		
						厚 さ	- 45	- 45	- 15	- 15
						幅	- 50	- 50		
1 共通 編	5 共通 施工	4 道路 関係	27	2	半たわみ性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	- 25	- 30	- 8	- 10
						幅	- 50	- 50		

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>基準高は延長 40m 毎に 1 箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。 厚さは各車線 200m 毎に 1 箇所を掘り起こして測定。 幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割に測定。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が 3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。</p>	
<p>幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、厚さは、各車線 200m 毎に 1 箇所を掘り起こして測定。</p>		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> )	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
1 共通編	5 共通施工	4 道路関係	27	3	半たわみ性舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰) 安定処理工	厚 さ	- 25	- 30	- 8	- 10
						幅	- 50	- 50		
1 共通編	5 共通施工	4 道路関係	27	4	半たわみ性舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工)	厚 さ	- 15	- 20	- 5	- 7
						幅	- 50	- 50		
1 共通編	5 共通施工	4 道路関係	27	5	半たわみ性舗装工 (基層工)	厚 さ	- 9	- 12	- 3	- 4
						幅	- 25	- 25		
1 共通編	5 共通施工	4 道路関係	27	6	半たわみ性舗装工 (表層工)	厚 さ	- 7	- 9	- 2	- 3
						幅	- 25	- 25		
						平 坦 性			3m <sup>2</sup> 070ルメター ( )2.4mm 以下 直読式 (足付き) ( )1.75mm 以下	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000 m <sup>2</sup> に 1 個の割でコアを採取もしくは掘り起こして測定。	工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が 3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。	
幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000 m <sup>2</sup> に 1 個の割でコアを採取して測定。	コア - 採取について 橋面舗装等でコア - 採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000 m <sup>2</sup> に 1 個の割でコアを採取して測定。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000 m <sup>2</sup> 毎に 1 個の割でコアを採取して測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> )	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
1 共通編	5 共通施工	4 道路関係	28	1	排水性舗装工 (下層路盤工)	基準高	±40	±50		
						厚 さ	-45	-45	-15	-15
						幅	-50	-50		
1 共通編	5 共通施工	4 道路関係	28	2	排水性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	-30	-8	10
						幅	-50	-50		
1 共通編	5 共通施工	4 道路関係	28	3	排水性舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰) 安定処理工	厚 さ	-25	-30	-8	-10
						幅	-50	-50		

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>基準高は延長 40m毎に 1 箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。 厚さは各車線 200m毎に 1 箇所を掘り起こして測定。 幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割に測定。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が 3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。</p> <p>コア - 採取について 橋面舗装等でコア - 採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。</p>	
<p>幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、各車線 200m毎に 1 箇所を掘り起こして測定。</p>	<p>維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。</p>	
<p>幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000 m<sup>2</sup>に 1 箇所の割でコアを採取もしくは掘り起こして測定。</p>		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> )	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
1 共通編	5 共通施工	4 道路関係	28	4	排水性舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚 さ	- 15	- 20	- 5	- 7
						幅	- 50	- 50		
1 共通編	5 共通施工	4 道路関係	28	5	排水性舗装工 (基層工)	厚 さ	- 9	- 12	- 3	- 4
						幅	- 25	- 25		
1 共通編	5 共通施工	4 道路関係	28	6	排水性舗装工 (表層工)	厚 さ	- 7	- 9	- 2	- 3
						幅	- 25	- 25		
						平 坦 性			3m <sup>2</sup> ダイヤメータ ( )2.4mm 以下 直読式 (足付き) ( )1.75mm 以下	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m毎に 1箇所の割とし、厚さは、1000 m <sup>2</sup> に 1個の割でコアを採取して測定。	工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が 3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。  コア - 採取について 橋面舗装等でコア - 採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
幅は、延長 80m毎に 1箇所の割とし、厚さは、1000 m <sup>2</sup> 毎に 1個の割でコアを採取して測定。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値 の平均 (X <sub>10</sub> )	
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下
1 共通編	5 共通施工	4 道路関係	29	1	グースアスファルト 舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工)	厚 さ	- 15	- 20	- 5	- 7
						幅	- 50	- 50		
1 共通編	5 共通施工	4 道路関係	29	2	グースアスファルト 舗装工 (基層工)	厚 さ	- 9	- 12	- 3	- 4
						幅	- 25	- 25		
1 共通編	5 共通施工	4 道路関係	29	3	グースアスファルト 舗装工 (表層工)	厚 さ	- 7	- 9	- 2	- 3
						幅	- 25	- 25		
						平 坦 性			3mプロファイルメータ ( )2.4mm以下 直読式 (足付き) ( )1.75mm以下	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m毎に1箇所の割とし、 厚さは、1000 m <sup>2</sup> に1個の割でコアを 採取して測定。	工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描 いた上での管理が可能な工事をいい、 基層および表層用混合物の総使用量が 3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事 より規模は小さいものの、管理結果を 施工管理に反映できる規模の工事をい い、同一工種の施工が数日連続する場 合が該当する。  コア - 採取について 橋面舗装等でコア - 採取により床版等 に損傷を与える恐れのある場合は、他 の方法によることが出来る。	
幅は、延長 80m毎に1箇所の割とし、 厚さは、1000 m <sup>2</sup> に1個の割でコアを 採取して測定。	維持工事においては、平坦性の項目を 省略することが出来る。	
幅は、延長 80m毎に1箇所の割とし、 厚さは、1000 m <sup>2</sup> 毎に1個の割でコアを 採取して測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 (X)		平均の測定値 (X <sub>10</sub> )
							中規模以上	小規模以下	中規模以上
1 共通編	5 共通施工	4 道路関係	30	1	透水性舗装工 (路盤工)	基準高	± 50		
						厚 さ	t < 15cm	- 30	- 10
							t ≥ 15cm	- 45	- 15
						幅	- 100		
1 共通編	5 共通施工	4 道路関係	30	2	透水性舗装工 (表層工)	厚さ	- 9	- 3	
						幅	- 25		

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>基準高は片側延長 40m 毎に 1 箇所割で測定。 厚さは、片側延長 200m 毎に 1 箇所掘り起こして測定。 幅は、片側延長 80m 毎に 1 箇所測定。</p> <p>歩道舗装に適用する。</p>		
<p>幅は、片側延長 80m 毎に 1 箇所割で測定。 厚さは、片側延長 200m 毎に 1 箇所コアを採取して測定。</p> <p>歩道舗装に適用する。</p>		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値	
							個々の測定値 (X)	平均の測定値 (X <sub>10</sub> )
1 共通編	5 共通施工	4 道路関係	31		路面切削工	厚 さ t	- 7	- 2
						幅 w	- 25	
1 共通編	5 共通施工	4 道路関係	32		舗装打換え工	路盤工	幅 w	- 50
							延長 L	- 100
							厚さ t	該当工種
						舗設工	幅 w	- 25
							延長 L	- 100
							厚さ t	該当工種
1 共通編	5 共通施工	4 道路関係	33		オーバーレイ工	厚 さ t	- 9	
						幅 w	- 25	
						延 長 L	- 100	
						平 坦 性	3m <sup>2</sup> のフィルムメーター ( ) 2.4mm 以下 直読式 (足付き) ( ) 1.75mm 以下	
1 共通編	5 共通施工	4 道路関係	34		落橋防止装置工	アンカーボルト孔の削孔長	設計値以上	
						アンカーボルト定着長	- 20 以内 かつ - 1D 以内	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>厚さは 40m 毎に現舗装高切削後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 延長 40m 未満の場合は、2 箇所 / 施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。 測定方法は自動横断測定法によることが出来る。</p>		
各層毎 1 箇所 / 1 施工箇所		
<p>厚さは 40m 毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、延長 80m 未満の場合は、2 箇所 / 施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。</p>		
全数測定		
<p>全数測定 D：アンカーボルト径 (mm)</p>		